

宇都宮市立宝木小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の設問では、「5さつ以上」と答えた児童は59.6%と、県平均を6.7ポイント上回っている。そのうち、「11さつ以上」と答えた児童が一番多く、県平均と比べて3.0ポイント上朝の読書活動によって定着が図られていることが分かる。今後も読書活動に力を入れていきたい。

○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」については、県平均よりも0.2ポイント、市平均よりも上回っている。家庭で自分の話をしっかり聞いてもらえたり、認めてもらえたりしていることが分かる。

○「しょう来のゆめや目ひょうをもっている」の設問に対する肯定的回答率は、県平均よりも2.4ポイント、市平均よりも上回っている。また、「家の人としょう来のことについて話すことがある」については、県平均よりも2.7ポイント、0.5ポイント上回っている。これらの結果から、しょう来について自分の考えをもっていることが分かる。今後も児童にした指導を行っていきたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」の設問に対する肯定的回答率は、58.0%と低く、県平均よりも8.4ポイントよりも6.6ポイント下回っている。また、「家で、学校のじゆ業の予習をしている」についても、48.9%と低く、県平均よりも4.5ポイント、市平均よりも4.1ポイント下回っている。「家で、学校やじゆくの決められた宿題のほかに自分で考えている」についても、42.0%と低く、県平均よりも18.3ポイント、市平均よりも18.1ポイント下回っている。自主学習活用して指導するとともに、家庭とも連携を図り、家庭学習を推奨していきたい。

●「じゆ業のさい後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の設問に対する肯定的回答率は、49.6%とよりも12.2ポイント、市平均よりも11.2ポイント下回っている。授業の最後に振り返りの時間を確保し、自らまとめていきたい。

●「算数の学習はすきですか」の設問に対する肯定的回答率は、67.2%で、県平均よりも10.8ポイント、市平均ポイント低い。理解が難しくなってくる時期なので、補習を取り入れて理解を深められるようにしていきたい。

●「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」の設問に対する肯定的回答率は、2%と低く、県平均よりも10.8ポイント、市平均よりも6.5ポイント下回っている。分からないことをすぐに調べる良付けさせたい。

●「自分はクラスの人役に立っていると思う」の設問に対する肯定的回答率は、47.3%と低く、県平均よりも6.5ポイントよりも7.5ポイント下回っている。自尊感情が高まるように配慮していきたい。

●平日に2時間以上テレビゲームをしている児童の割合は26.0%、2時間以上テレビやビデオ・DVDを視聴している場合は54.9%と高い。テレビゲームやテレビ、ビデオ、DVDの弊害や家庭での過ごし方について、引き続き指導して、各家庭への啓発を行っていきたい。

●携帯電話やスマートフォンの所持率は、44.3%と、県平均よりも3.0ポイント、市平均よりも1.7ポイント上回ってはいけないサイトにつながらないようになっていますか」の設問については、43.5%と低い。今後も引き続き、スマートフォン、携帯用ゲーム機器の正しい使い方、フィルタリングの重要性について指導していくとともに、各家庭にたい。

が見られるもの
ポイント、市平
回っている。

3. 1ポイント

りも1. 2ポイ
市平均よりも
の夢を大切

ポイント、市
平均よりも
た学習をして
の手引きを

低く、県平均
)を行うように

よりも1. 2

答率は、41.
い習慣を身に

2ポイント、市

る児童の割
ていくとも

ている。「見
帯電話やス
啓発してい